

## 船橋市での福祉活動



シニアライフコーディネーター 三宅 章之

### 船橋市の地域活動

初めに船橋市での地域活動と言っても大きな活動はしていません。私の周りは、生き生きと生活をし、働きたい高齢者がたくさんいます。

身銭を切ってもボランティアで働きたい方や、少し収入を欲しい方などに範囲を広げ、無償で提供するもの、有償で提供できるものなどを選択することにしています。

これはコーディネーターが判断しますが、生活に余裕がある方からはサービスに対する若干の費用をいただいて、それ以外の方は部品などの実費以外は無償にしています。場合によっては全部無償もあります。

### 近所づきあいからの仲間づくり

近所の付き合いから始まり、それが縦、横に広がり、さらに大きな輪になるようなお付き合いで、困っている方がいると声をかけ、その方たちと世間話をし、次第に仲間意識を持てるようにして打ち明け話ができる関係になるようにしています。

### 福祉の資格取得や講座で勉強

私は高学歴ではありませんが、過去にヘルパー2級、福祉用具専門相談員、福祉住環境コーディネーター



(京成バラ園にて)

を取得し、さらに要介護者の病院などへの移送サービスのドライバー養成や任意団体の認知症講座などを受講しました。また、福祉に関する講演会などには積極的に参加し、自分なりに知識を習得、福祉活動に活用できていると思っています。

また、市役所では地域包括支援課でのオレンジネット活動や、生活保護受給者に認知症の気配がある方への対応、その善後策など行政の目が届かない部分をどう繋いでいくかを、私たちは行動を通して考えています。



(市民祭り認知症メモリーウォーク)

### 若年性認知症の方のお世話

認知症に関して言えば、私は若年認知症のSさんとお付き合いしています。守秘義務で言えないこともありますが、一番大事なことは心を開いて話をすることです。

認知症の方はサポートする私たちのことを実によく見ています。ごく自然に、心が通い合い打ち解けて話ができる人を選んでいるように思えます。

### 最近起きた独居老人のエピソード

集合住宅に管理人で入居して約4年、最近、独居老人の方が2人お亡くなりになりました。一人目の方は緊急入院後、病院でお亡くなりになりました。親戚がいたので、火葬、荷物の整理は身寄りの印鑑でスムーズにでき、その場合、管理人には負担はありませんでした。

二人目の方はショートステイに行った先でお亡くなりになりました。施設に警察が行き、次は管理人にも話を聞きたいと電話がきました。何かありましたかと聞くと、状況を聞くだけですから協力してくださいとのことでした。長い時間待たされ、ショートステイに行く前はどのような状態だったかなどの質問を受けました。

その後、火葬はスムーズでしたが、部屋の片づけ、荷物の搬出は親戚の印鑑がもらえないと、民事上、動かさないそうで、今は部屋を荷物が占領している状態です。このような独居老人の問題は今後もますます多くなりそうです。